

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	スター・ポケット（保育所等訪問支援）			
○保護者評価実施期間	令和7年4月21日 ~			令和7年4月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数)	1名
○従業者評価実施期間	令和7年4月21日 ~			令和7年4月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	2名
○訪問先施設評価実施期間	令和7年4月21日 ~			令和7年4月30日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	2件	(回答数)	1件
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年5月10日			

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問先施設に対して、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っている。	私たちは決して指導する立場ではないということを伝えている。共に児童の成長を願っている仲間であるということを理解していただいている。	訪問先の中にはこの事業は事業所から指導を受けるものだと理解している場合が珍しくはない。私たちから積極的にアプローチをし、そうではないことを理解していただくことが今後の取り組みとして必要と考えている。
2	児童や、保護者の意向を確認し、尊重している。	児童や、保護者がどのような希望を持って、未来を描いているか、そして、それに寄り添うことができているかを最も重要なとして捉えている。	児童や、保護者の意思や願い、想いを汲み取る機会を今まで以上に多く取ることが必要。会話を続けていく中で信頼が生まれ、本音であり、本気の未来への願いを聞き出すことが必要。
3	毎回の記録を全職員と共有し、成長や課題を共通認識として持ち、今後の支援に活かしている。	事業の担当者だけが理解するのではなく、日々の支援にとても保育所等訪問で得られた児童の姿は重要な情報であると理解して、全職員で報告内容を確認し、今後の支援のポイントとなる部分を見つけ出している。	自施設だけでなく、法人内の他施設からもアドバイスや意見を受け入れ、多角的に児童の成長について検討する機会があつても良いかと思う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人員体制の充足	もちろん基準は満たしているが、保育所等訪問支援のように外部に出向かなくてはならない事業を実施する際には児童事業に支障の出ないようにすることに捉われている。	採用活動に注力し、人員確保を今後も継続して行っていくことと、職員の定着が必要。 また、幼稚園、保育園との定期的な電話連絡などで児童の成長に対する情報共有の実施が必要。
2	保育所等訪問支援実施後の保護者に対する説明が不足していると感じられている。	事業実施後に説明は行っているが、結果として不足として捉えられている。保護者が求めている説明が不足しているのではないかと考えられる。	保護者が何を求めていて、その点について状況説明ができるか、そして、気になる点を成長させる方法について説明ができるか。ポイントをおさえて説明する準備ができているかを保護者に伝える前に職員間で内容を精査することが必要。
3			